

高崎ユネスコ協会会長賞

## 笑顔と優しさを編む

高崎市立桜山小学校 五年 藤塚 彩由愛

今年の三月、私の家にチェコから十七さいの女の子が来た。

「私の英語、きちんと伝わるかな。仲良くなれるかな。」

来ることが決まってから、新しいお姉ちゃんができる楽しみな気持ちと、心配な気持ちで、私は迷子になりそうだった。留学生の名前はマル。マルは、いつも笑顔で、私にたくさん話しかけてくれた。マルは編み物が得意だった。たん生日に、手作りのバッグをプレゼントしてくれて、とてもうれしかった。編み物をしているマルを見ていたら、マルが編み方を優しく教えてくれた。英語や日本語、ジェスチャーをつかって。私が上手に編めたら、自分のことのように喜んでくれた。

チェコのパンケーキ「ブランボラク」や、チェコのすっぱいスープ「クライダ」を作ってくれた。そんなチェコ料理より、日本のカレーが一番おいしいとってくれた。私の大好きな上毛カルタを一緒にしたり、みたらし団子や焼きまんじゅうを一緒に作ったりした。観音様を歩いて見に行ったとき、つかれていた私をおんぶしてくれた。本当のお姉ちゃんみたいで心が温かくなった。妹と一緒に、マルモリダンスをしていたら、

「かわいい。名前と同じ。」

と言って、たくさん笑ってくれた。マルと一緒にすごした時間は、私にとって宝物になった。

四ヶ月間、私とマルは姉妹だった。チェコに帰るため、マルは荷造りをしていた。帰ってほしくなくて、私は何も言わずにとりかき編み物をしていた。突然マルが、

「さゆあ、あげる。」

と言って、持っていた毛糸を全部私にくれた。とてもおどろいて、うれしくて、けれども悲しくて、涙がたくさん出た。

住んでいる国や、話している言葉がちがっても、仲良くなれた。笑顔と仲よくなりたいという気持ちがあったから。ロシアがウクライナに侵攻したときの、テレビの映像が忘れられない。私は怖くて、母にしがみついていたのを覚えている。一年半経った今も、戦争が続いている。戦争や武器で、仲良くなれるはずがない。きらいという気持ちや恐ろしい顔は、絶対に必要ないと思う。

私はマルに伝えたい。

「日本に来てくれて、私の家に来てくれて、ありがとう。今度は私が、チェコに行くね。」学校の勉強を、今よりずっとがんばろうと決めた。英語も、もっと話せるようになりたい。編み物も続けて、マルをびっくりさせられるくらい、上手になりたい。そして、笑顔も優しい気持ちも、大切に編んでいきたい。